

2022年度2年次3月(2021年4月入学・形成期)

「学びと成長の歩みの記録」アンケート(概要版)

「学びと成長の歩みの記録」の概要

立教大学では、2021年度に入学した学生を対象に「学びと成長の歩みの記録」(学修状況調査)のアンケート調査を実施しました。

「学びと成長の歩みの記録」のコンセプトは「学生自らが、[RIKKYO Learning Style](#)の各学修期(『導入期』『形成期』『完成期』)に合わせて自身の学修成果をふりかえり、成長の変化を自覚できること、そして、大学としてその結果を分析・検証し教育の改善に活用すること」です。

今回は2021年度学部1年次入学者(2021年4月入学)を対象に、形成期終了時点の2年次3月「形成期」終了時点の2年次3月に実施しました。今後、在学中に継続的なアンケート調査を実施し、「導入期」「形成期」「完成期」を通じた学びと成長の過程を追っていきます。

この資料では集計・分析結果の概要をご紹介します。アンケート調査にご回答いただいた学生のみなさん、ご協力ありがとうございました。立教大学では、今回の結果を踏まえてこれからの教育の改善に活かしていきます。

実施時期：2023年3月6日～2023年5月31日

調査対象：2022年度学部2年次生(2021年4月入学)

調査方法：全数調査(オンライン調査)

調査目的：RIKKYO Learning Styleの「形成期」終了時点での学修成果等の把握を目的として実施することで、立教大学での学びや過ごし方について学生自身がふりかえり、大学としてその結果を教育の改善のために活用すること。

回答数と回答率

対象学生数：4,473名 回答数：1,393名 回答率：31.1%

学部	対象学生数	回答者数	回答率
文学部	856	324	37.9%
経済学部	654	163	24.9%
理学部	295	97	32.9%
社会学部	497	156	31.4%
法学部	570	168	29.5%
経営学部	373	82	22.0%
異文化コミュニケーション学部	134	49	36.6%
GLAP*	22	12	54.5%
観光学部	361	100	27.7%
コミュニティ福祉学部	404	137	33.9%
現代心理学部	307	105	34.2%
合計	4,473	1,393	31.1%

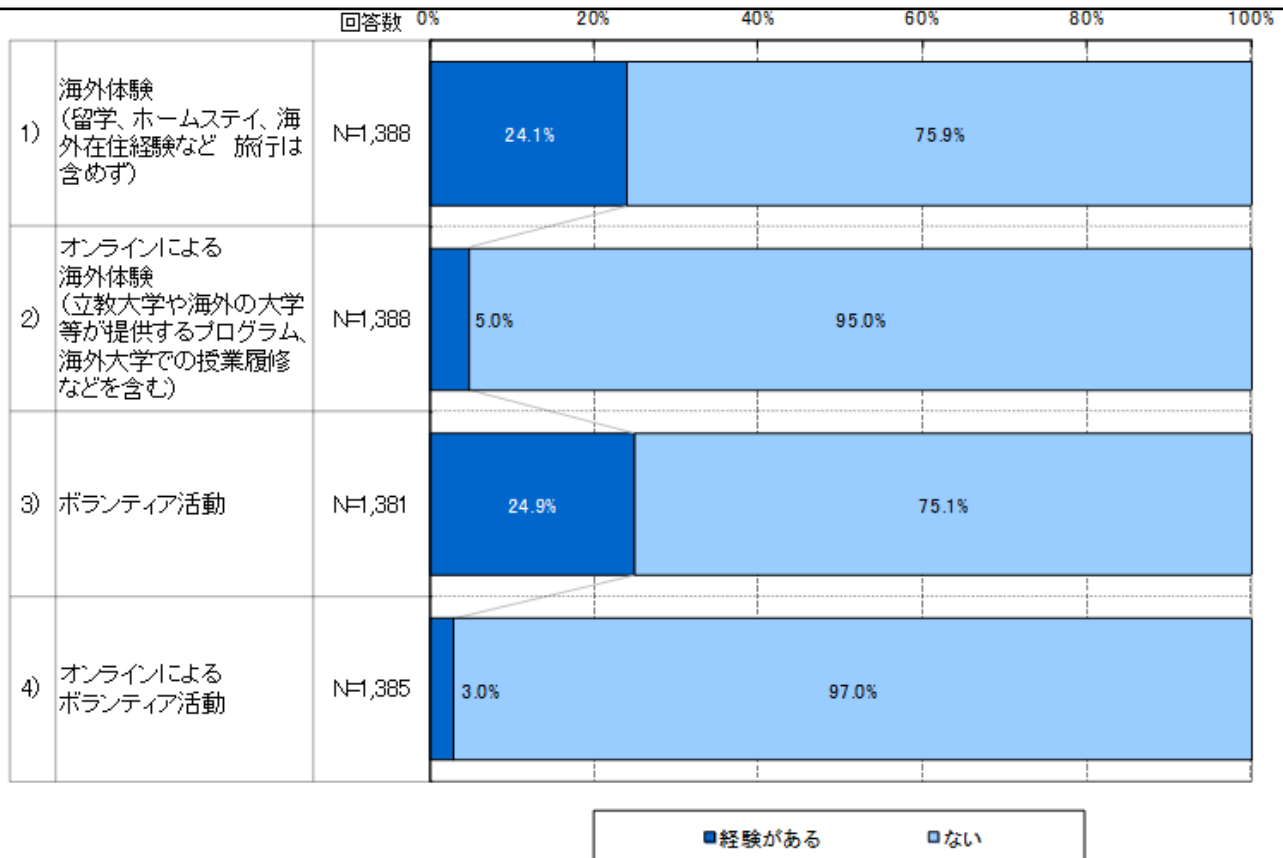
*注) GLAP: グローバル・リベラルアーツ・プログラム

調査結果（概要）

本調査で得られた調査・分析結果の概要をご紹介します。

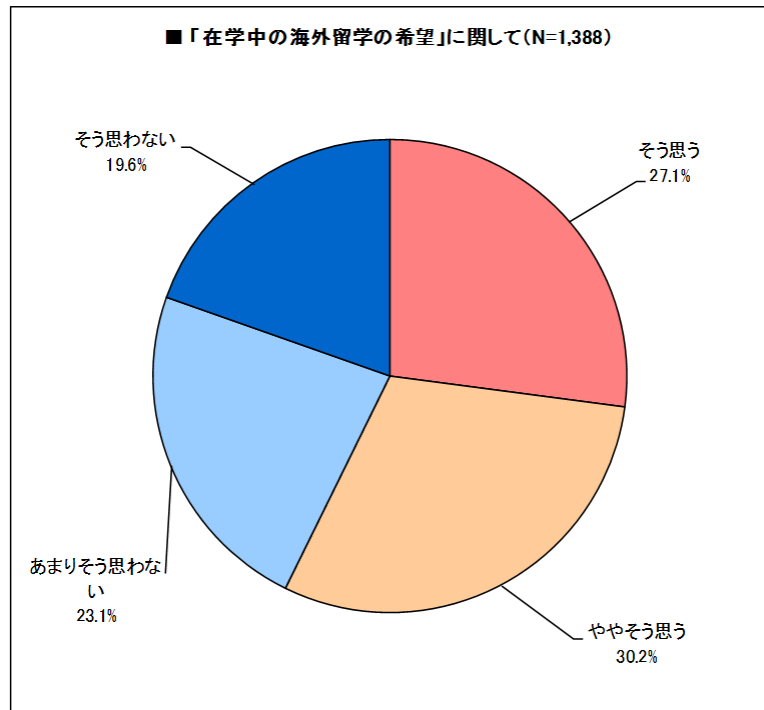
■Q1.1 年次春学期終了から2年次秋学期終了までの経験

- 海外体験を経験した学生は24.1%、オンラインによる海外体験を経験した学生は5.0%、ボランティア活動を経験した学生は24.9%、オンラインによるボランティア活動を経験した学生は3.0%でした。



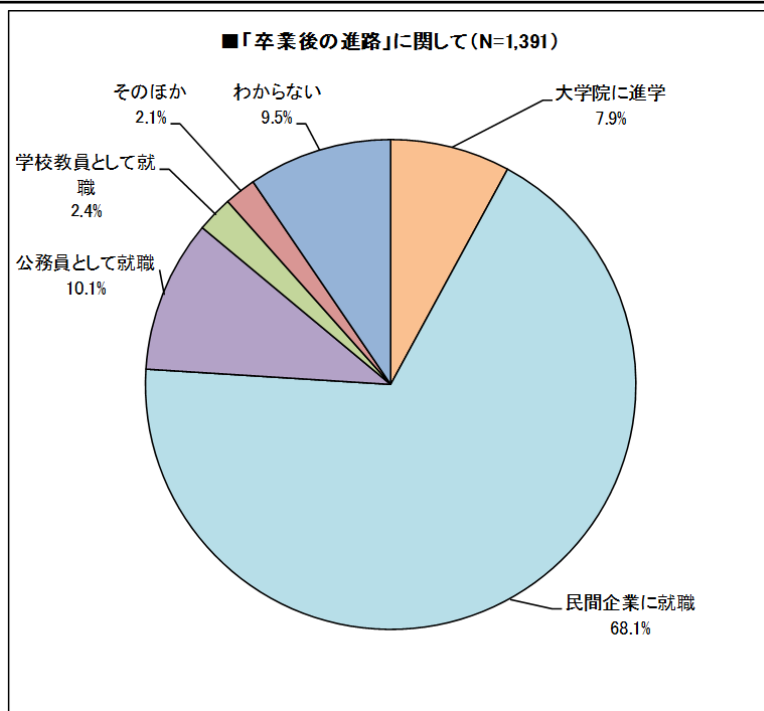
■Q2. 在学中の留学意向

- 在学中の留学に対する意向を尋ねたところ、「そう思う」が 27.1%、「ややそう思う」が 30.2%、「あまりそう思わない」が 23.1%、「そう思わない」が 19.6%で、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせると、約 6 割の学生が留学したいとされていることがわかりました。



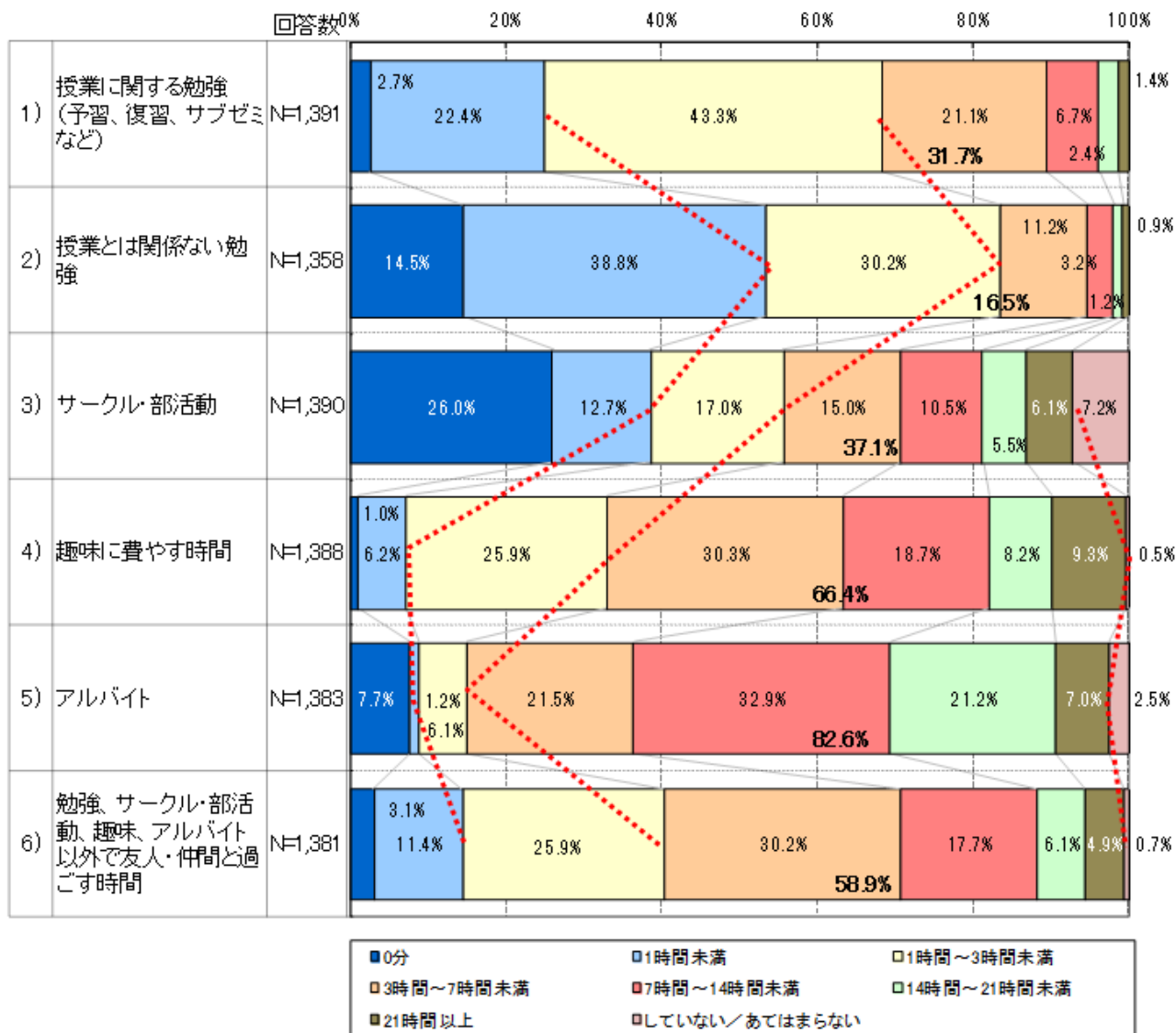
■Q3. 卒業後の進路意向

- 卒業後の進路の意向について尋ねたところ、「民間企業に就職」が最も多く 68.1%、「公務員として就職」が 10.1%、「わからない」が 9.5%と続いていました。



■Q4. 学生生活（1週間あたりに費やした時間）

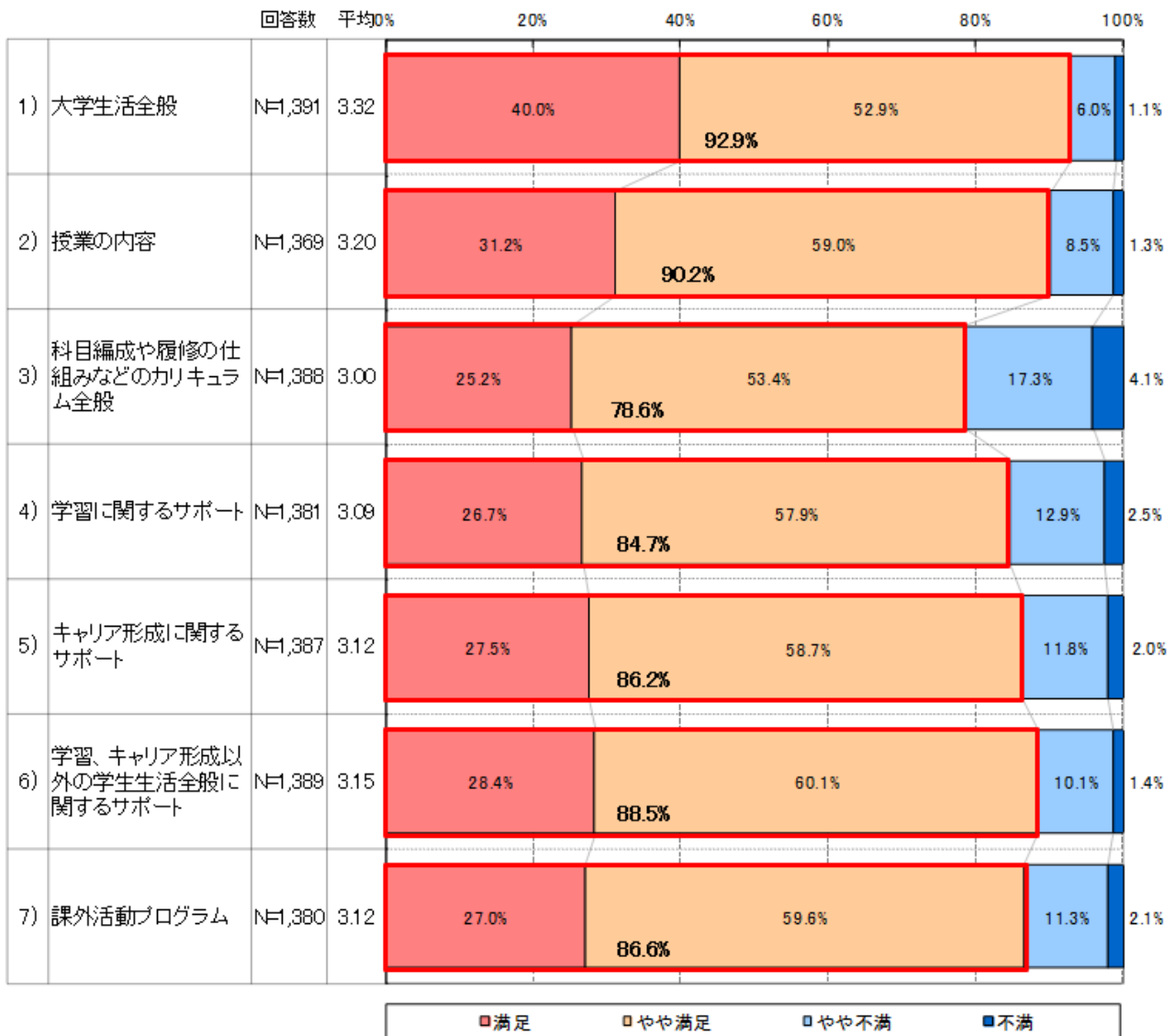
- 春学期にそれぞれの活動に費やした時間（1週間あたりの平均）を尋ねたところ、授業に関する勉強では、「1時間～3時間未満」が最も多く43.3%、次いで「1時間未満」が22.4%となっていました。授業以外での勉強では、「1時間未満」が最も多く38.8%、次いで「1時間～3時間」が30.2%となっていました。
- サークル・部活動では、「0分」が最も多く26.0%、趣味に費やす時間では、「3時間～7時間未満」が最も多く30.3%、アルバイトでは、「7時間～14時間未満」が最も多く32.9%、これら以外の友人・仲間と過ごす時間では、「3時間～7時間未満」が最も多く30.2%となっていました。



※1)授業に関する勉強、2)授業とは関係ない勉強の2つの質問には「していない/あてはまらない」という選択肢は用意していない。

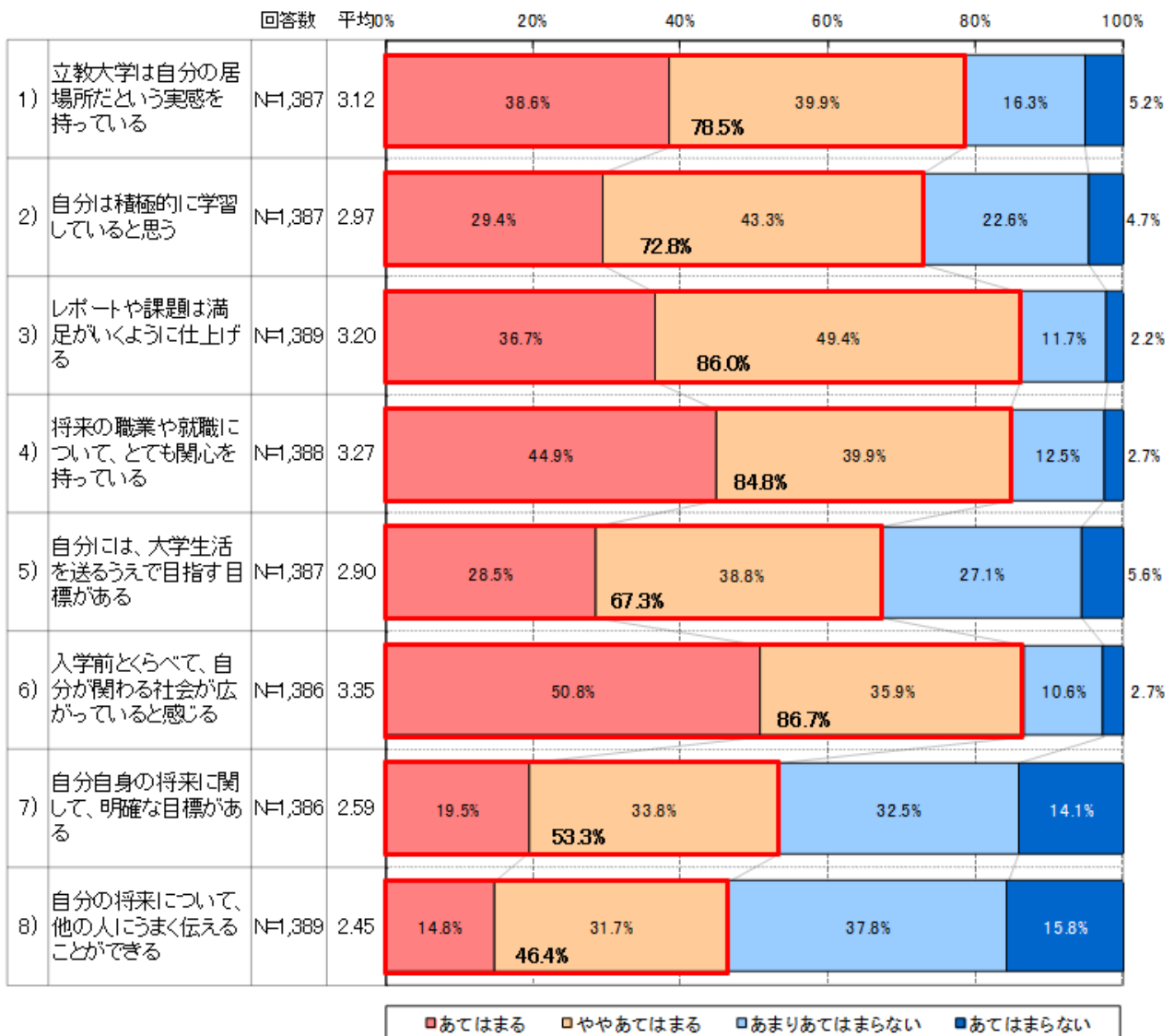
■Q5. 満足度

- 立教大学の各項目への満足度を尋ねたところ、「満足」「やや満足」を合わせると、6つの項目で8割以上の学生が立教大学での授業やサポートについて満足していると回答していました。肯定的な回答が最も多かったのは「1) 大学生活全般」で92.9%でした。また、肯定的な回答が最も少なかったのは「3) 科目編成や履修の仕組みなどのカリキュラム全般」で78.6%でした。



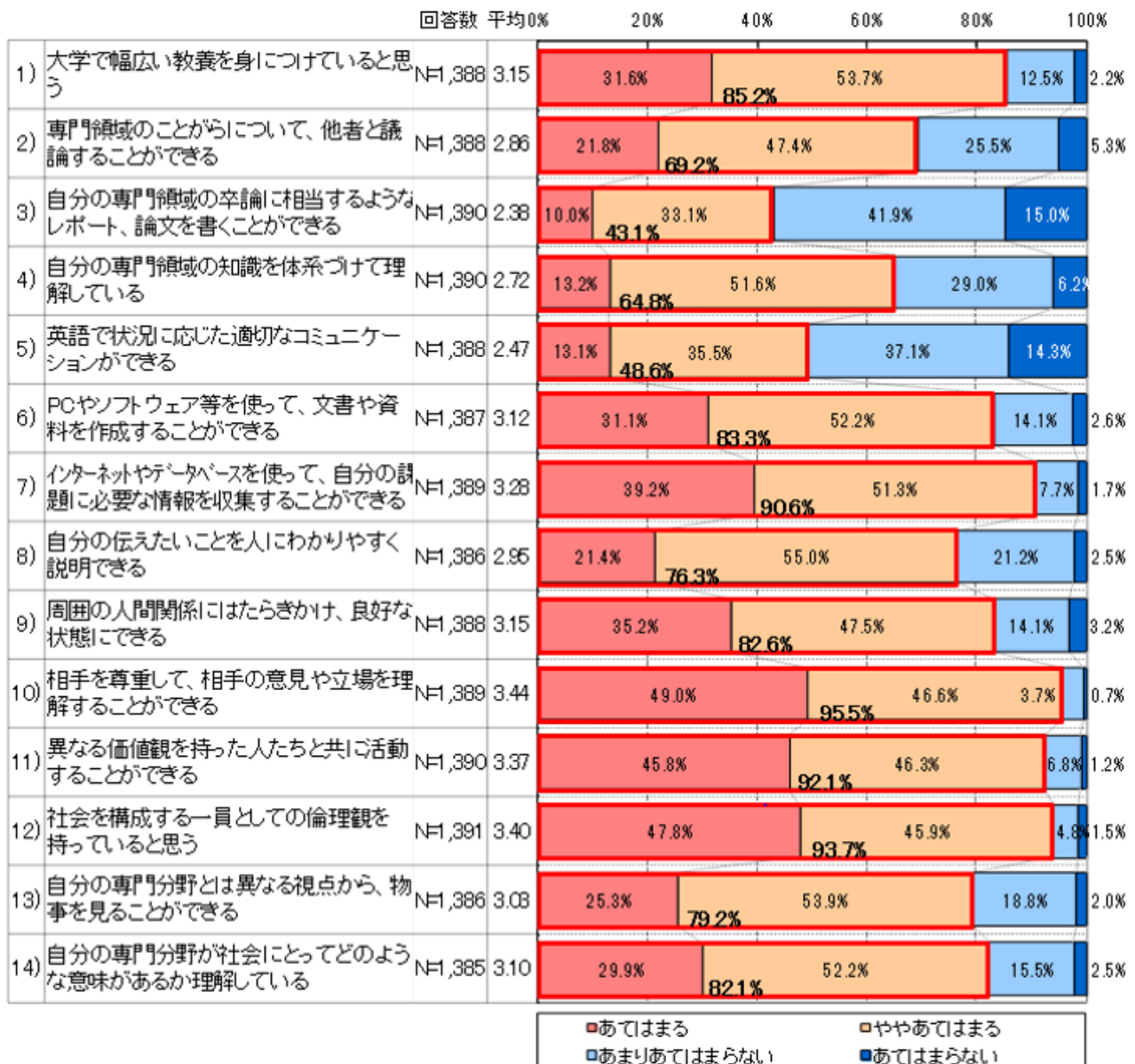
■Q6. 大学生活・学修について

- 大学生活や学修についての認識について尋ねたところ、Q6.1～Q6.4、Q6.6の現在の大学生活や学習、進路に関する各質問項目では、7割以上の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答していました。
- 一方、Q6.7「自分自身の将来に関して、明確な目標がある」、Q6.8「自分の将来について、他の人にうまく伝えることができる」では「あまりあてはまらない」「あてはまらない」が半数程度となっていました。



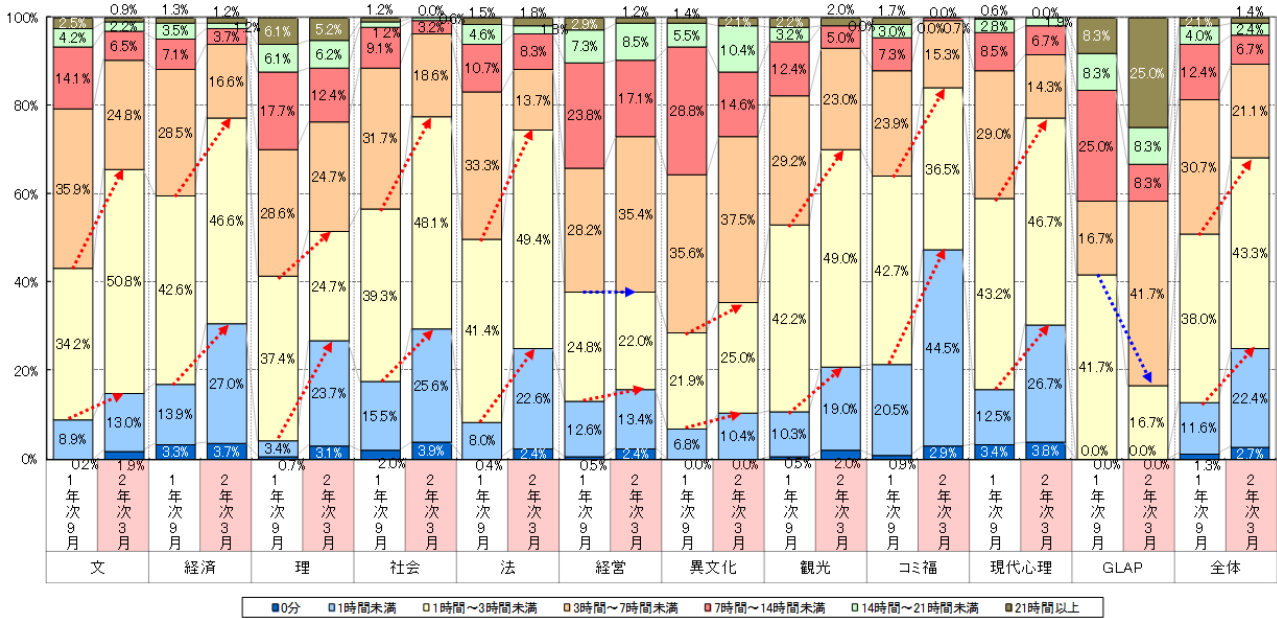
■Q7. 「立教大学 学士課程教育の目的」の学修成果

- 立教大学の学士課程教育の目的(ディプロマ・ポリシー)と関連する各項目について尋ねたところ、Q7.1、Q7.2、Q7.4、Q7.6～Q7.14では、半数以上の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答していました。
- 一方、Q7.3の専門的な学問の執筆力を尋ねる項目や英語によるコミュニケーション能力を尋ねる項目では半数以上の学生が「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答していました。



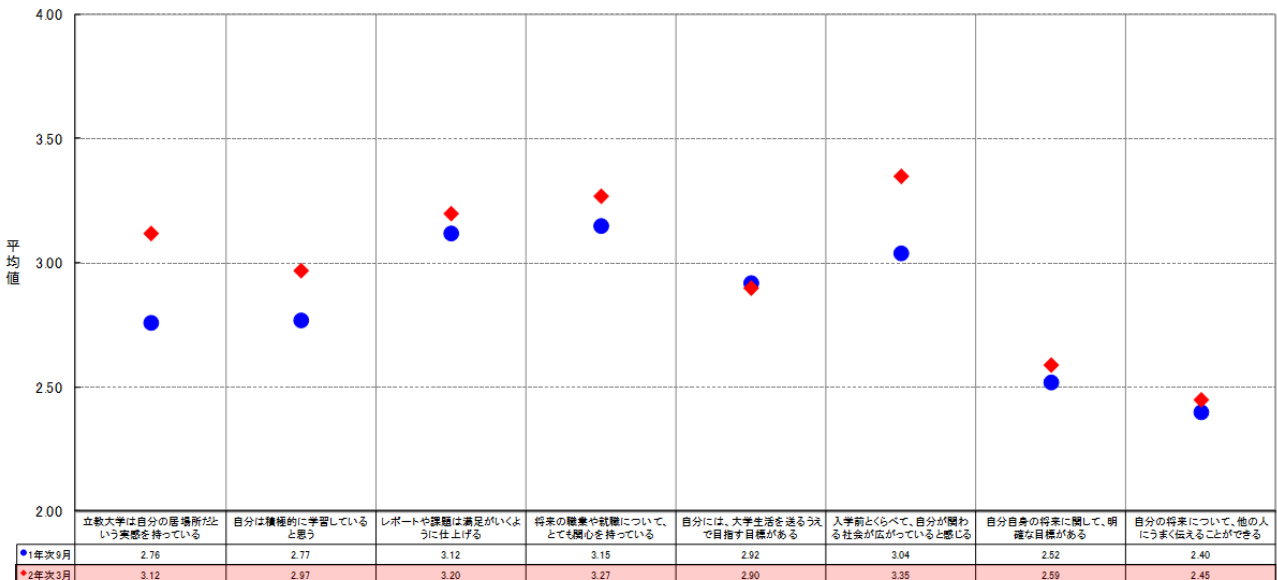
■ 〈授業に関する勉強〉に費やした時間（1年次9月調査時点との比較）

- 時間が短い層の目安として「1時間未満」までの合計で比較すると、すべての学部で「1年次9月」より増加しており、〈授業に関する勉強〉の時間は短くなっていました。
- 時間が長い層の目安として「3時間以上」を合計したところ、経営学部を除くすべての学部で減少していました。



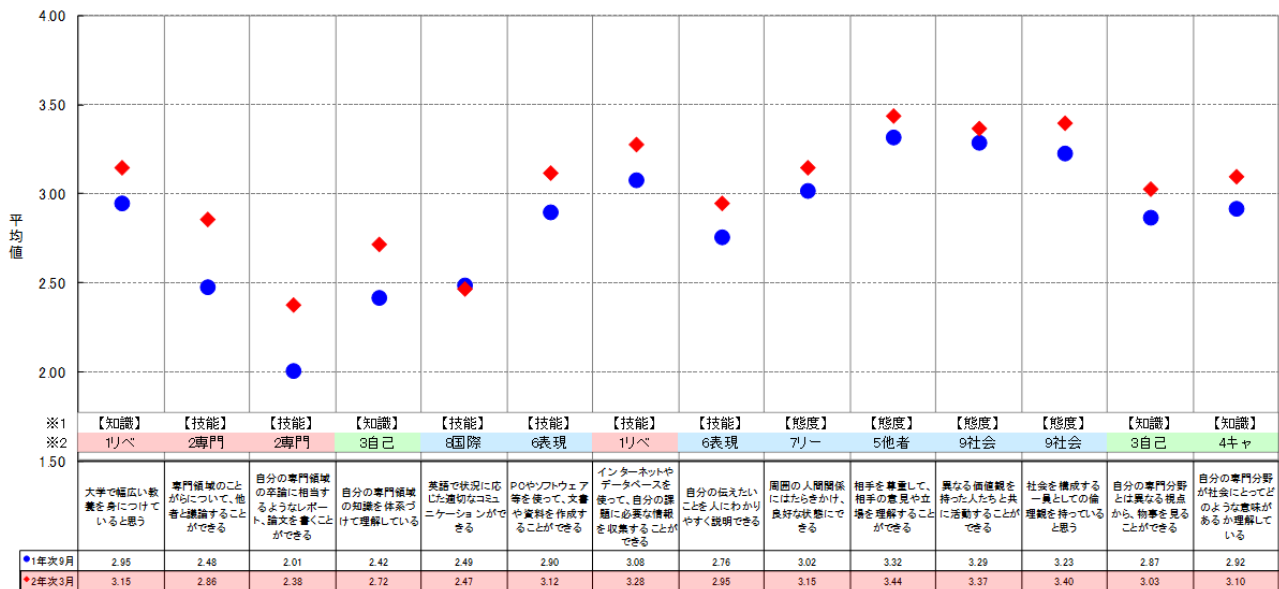
■ 「自分自身の状況」（1年次9月調査時点との比較）

- 「2年次3月」の方がスコアの高い項目を点差が大きい順に挙げると、「立教大学は自分の居場所だ」という実感を持っている」「入学前とくらべて、自分が関わる社会が広がっていると感じる」「自分は積極的に学習していると思う」となっていました。
- 「2年次3月」の方がスコアの低い項目は、「自分には、大学生活を送るうえで目指す目標がある」のみでした。



■ 「身につけている能力」(1年次9月調査時点との比較)

- 「2年次3月」の方がスコアの高い項目を点差が大きい順に挙げると、「専門領域のことがらについて、他者と議論することができる」「自分の専門領域の卒論に相当するようなレポート、論文を書くことができる」「自分の専門領域の知識を体系づけて理解している」となっていました。
- 「2年次3月」の方がスコアの低い項目は、「英語で状況に応じた適切なコミュニケーションができる」のみでした。



2023年12月
立教大学 大学教育開発・支援センター 教学 IR 部会